

**全クラスに専門家の講義を  
届ける！**

**～F E S Cによる金融教育  
バウチャーの提案～**

常磐大学・総合政策学部・経営学科

文堂ゼミナール3年

篠田 裕也 岩間 勇汰朗 片野 将寛

川又 悠生 小泉 麟

# 内容

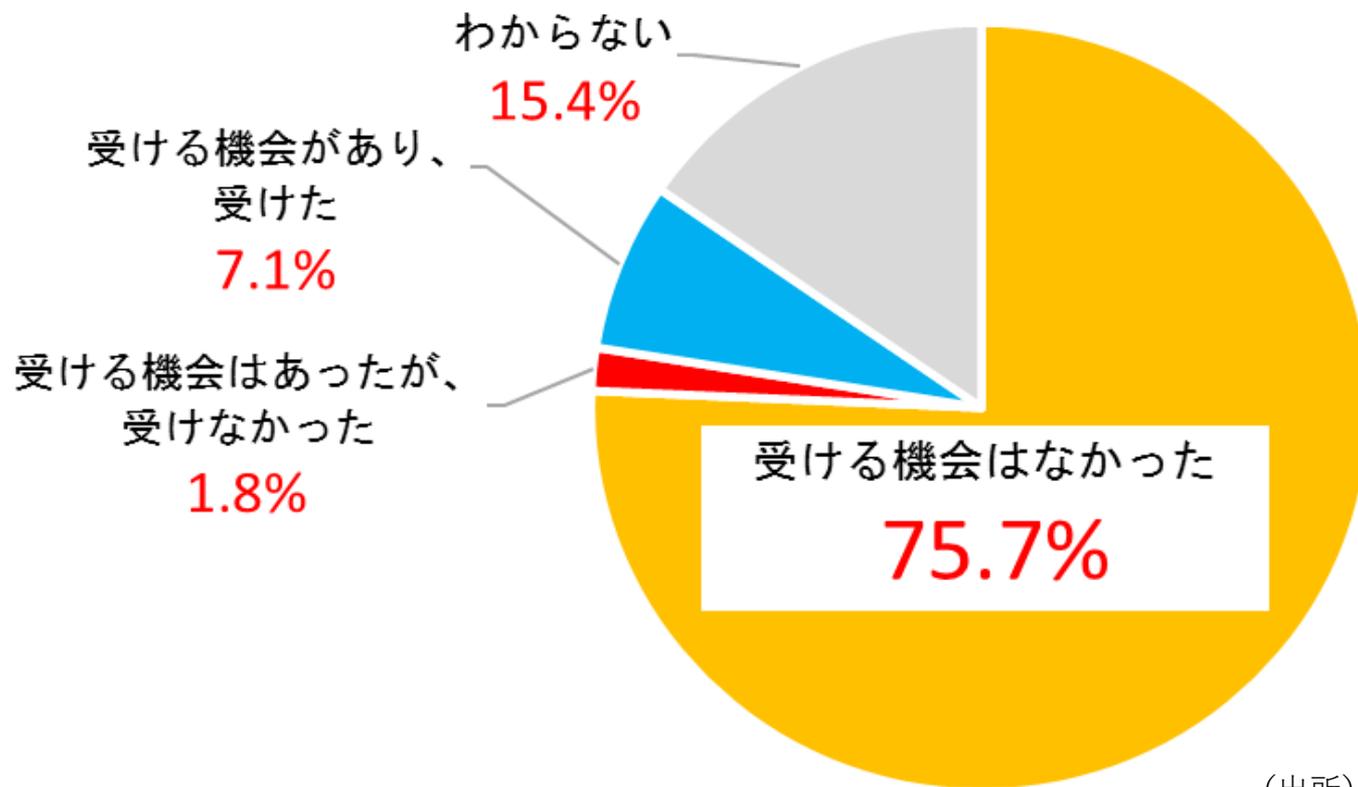
1. 金融教育の現状
2. 家庭科での金融教育の開始
3. 家庭科における金融教育の課題・懸念
4. 高校へのヒアリング調査
5. ヒアリング調査の結果
6. 金融教育のリアルな課題
7. 解決のアイデア
8. メリット
9. 実現性
10. 結論

# 内容

1. 金融教育の現状
2. 家庭科での金融教育の開始
3. 家庭科における金融教育の課題・懸念
4. 高校へのヒアリング調査
5. ヒアリング調査の結果
6. 金融教育のリアルな課題
7. 解決のアイデア
8. メリット
9. 実現性
10. 結論

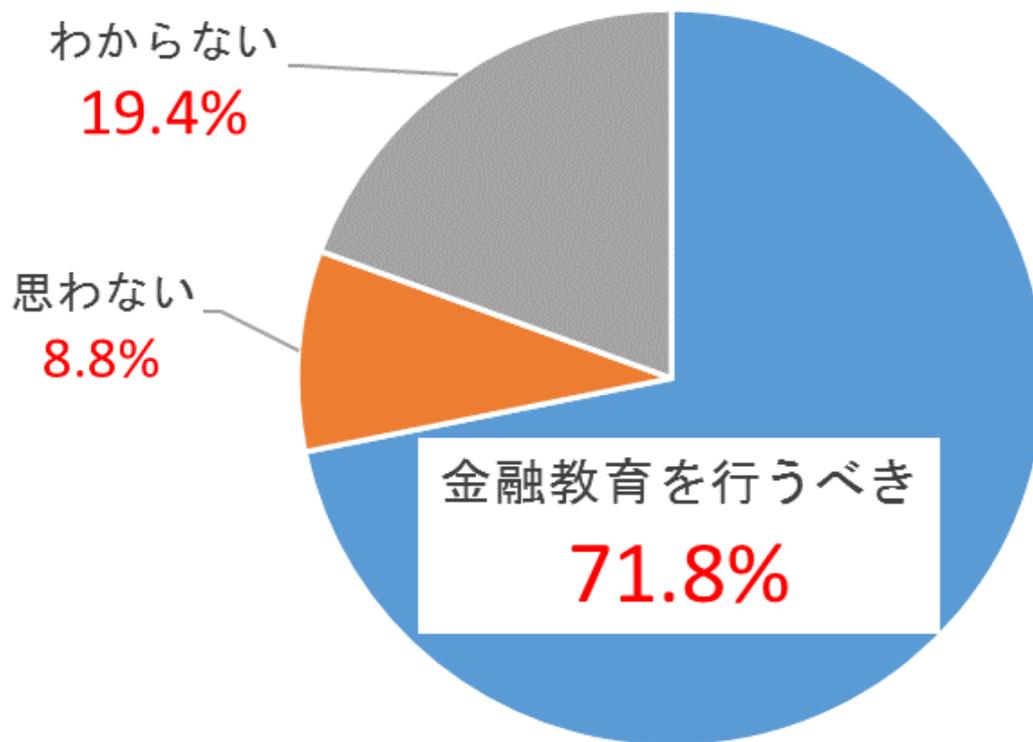
# 1. 金融教育の現状

## ①金融教育を受ける機会



75.7%の人が、学校で金融教育を受ける機会がなかったと認識している。

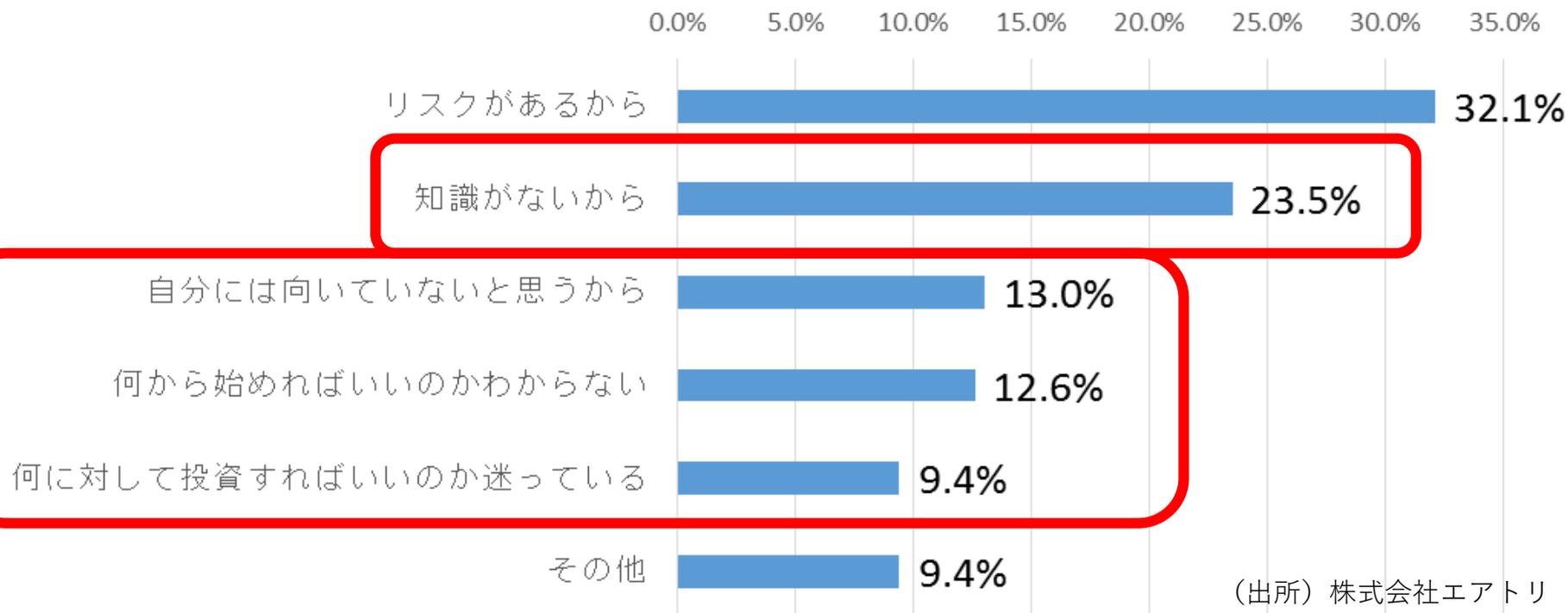
## ②金融教育を求める声



(出所) 金融広報中央委員会

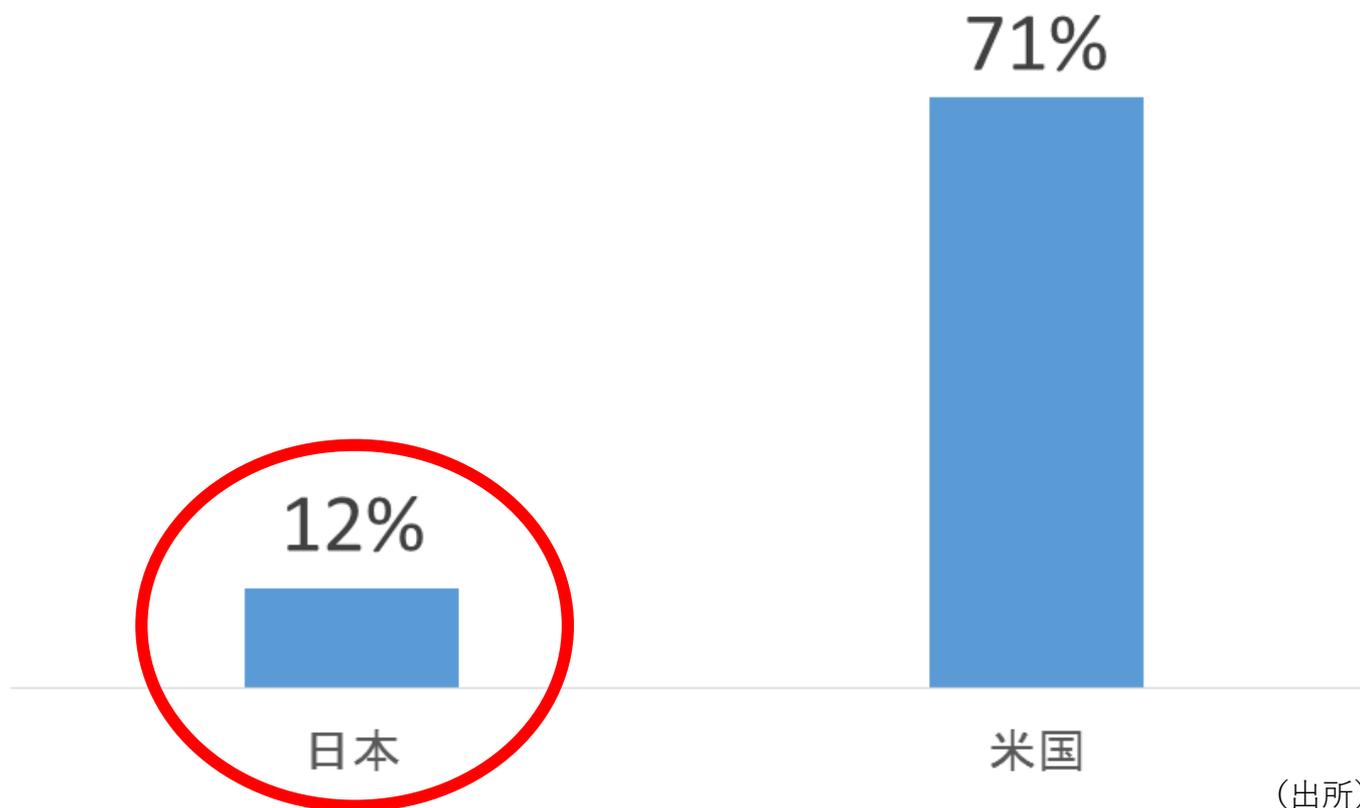
71.8%の人が、金融教育を行うべきと考えている。

### ③資産運用をやっていない理由



資産運用を行っていない理由の第2位は「知識がないから」であり、さらに第3位以下も知識がないことが影響している項目が多い。

## ④金融知識に自信がある人の日米比較



(出所) 金融広報中央委員会

金融知識に自信がある人の割合が、アメリカに比べて日本は圧倒的に低い。

# 内容

1. 金融教育の現状
2. 家庭科での金融教育の開始
3. 家庭科における金融教育の課題・懸念
4. 高校へのヒアリング調査
5. ヒアリング調査の結果
6. 金融教育のリアルな課題
7. 解決のアイデア
8. メリット
9. 実現性
10. 結論

## 2. 家庭科での金融教育の開始

- 今年4月、高校の家庭科で金融教育が必修化
- 「預貯金，民間保険，株式，債券，投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリット，デメリット），資産形成の視点にも触れるようにする。」（学習指導要領）



今後は高校で金融商品や資産形成に関する教育が実施される。

# 内容

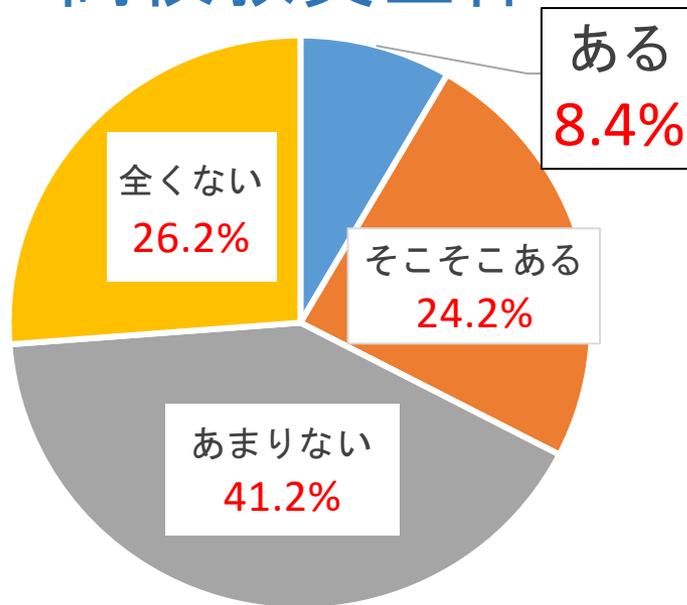
1. 金融教育の現状
2. 家庭科での金融教育の開始
3. 家庭科における金融教育の課題・懸念
4. 高校へのヒアリング調査
5. ヒアリング調査の結果
6. 金融教育のリアルな課題
7. 解決のアイデア
8. メリット
9. 実現性
10. 結論

### 3. 家庭科における金融教育の課題・懸念

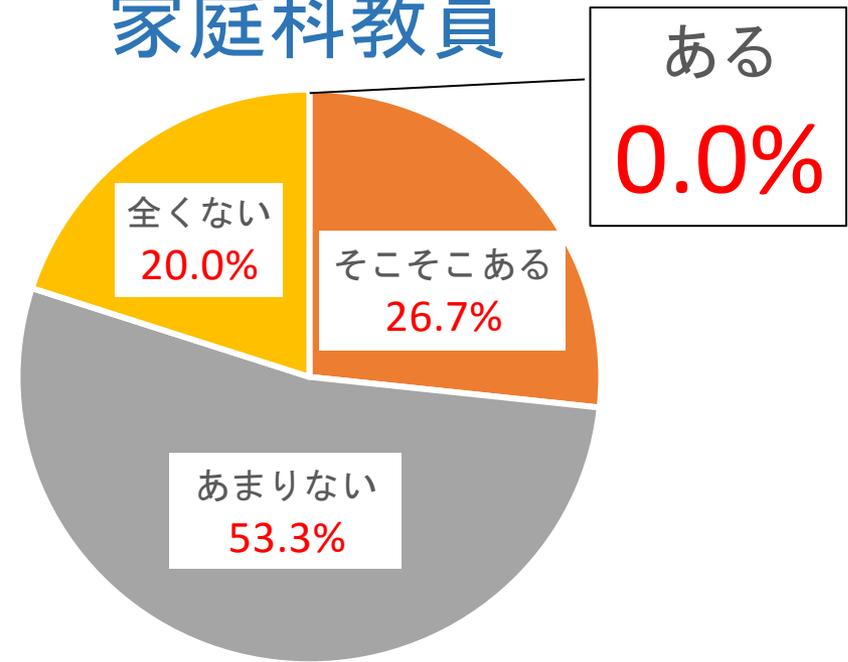
- ① 家庭科の教諭は、必ずしも十分な知識を持って生徒に指導できないのではないか？
- ② 教えにくい分野と教えやすい分野に差があるのではないだろうか？
- ③ 外部の専門家に講師を依頼する場合、難しい内容となって生徒が理解できないのではないか？
- ④ 教科書の知識だけでは、座学中心で実際にはあまり役に立たないのではないか？

# 高校教員が「資産形成」を教える自信の有無

## 高校教員全体



## 家庭科教員



(出所) 株式会社Free Life Consulting

確実な自信をもって生徒に「資産形成」を教えられる家庭科教諭はいない。

# 内容

1. 金融教育の現状
2. 家庭科での金融教育の開始
3. 家庭科における金融教育の課題・懸念
4. 高校へのヒアリング調査
5. ヒアリング調査の結果
6. 金融教育のリアルな課題
7. 解決のアイデア
8. メリット
9. 実現性
10. 結論

## 4. 高校へのヒアリング調査

### (1) ヒアリング対象

- ・茨城県内私立A高校の家庭科教諭（8月3日10~11時訪問）
- ・茨城県内県立B高校の家庭科教諭（8月17日10~11時訪問）

### (2) 調査内容

- 【1】 ご担当の「家庭科」での金融教育の授業時間数
- 【2】 ご担当の「家庭科」での金融教育の内容
- 【3】 ご担当の「家庭科」で実施している金融教育の教え方
- 【4】 ご担当の「家庭科」で実施している金融教育の教え方の課題
- 【5】 望ましいと思う「家庭科」での金融教育の教え方

### (3) 調査方法

半構造化面接法

# 各項目の主な回答

## 【1】金融教育の授業時間数

- A高校は6時間（経済分野を含む）、B高校は8時間。
- 両校とも生徒にライフプランを作成させる時間を取り入れている。

# 各項目の主な回答

## 【2】金融教育の内容

- 資産形成や金融商品に関する内容は、両校とも教諭自身では教えず、外部講師に依頼するつもりである。
- 両校とも、生徒は金融教育に関心を持っていると感じている。

# 各項目の主な回答

## 【3】金融教育の教え方

- 両校とも「教科書の該当範囲の概要の理解」を最も重視し、次に「実際の数値の理解」を重視して教えている点は共通。
- 両校とも、生徒自身によるライフプラン作成、生徒同士の意見交換、映像資料の活用を行い、さらに外部講師も活用している。

# 各項目の主な回答

## 【4】金融教育の教え方の課題

- 両校とも、資産形成に関する知識に対して教諭自身が不十分と感じていることが課題だと認識している。
- 両校とも、外部講師を招いた授業では、全クラス対象とした一斉授業となるので一方通行の授業となることや、机がない教室で生徒は聞くだけになることが課題であると認識している。

## 各項目の主な回答

### 【5】望ましいと思う「家庭科」での金融教育の教え方

- 両校とも、質問用紙に記載したほぼすべてを取り入れることが望ましいと考えている。
- 両校とも、それらを実際の金融教育の授業で活用する計画である。

# 内容

1. 金融教育の現状
2. 家庭科での金融教育の開始
3. 家庭科における金融教育の課題・懸念
4. 高校へのヒアリング調査
5. ヒアリング調査の結果
6. 金融教育のリアルな課題
7. 解決のアイデア
8. メリット
9. 実現性
10. 結論

## 5. ヒアリング調査の結果

①家庭科の教諭は、必ずしも十分な知識を持って生徒に指導できないのではないか？

→資産形成や金融商品に関して教諭に不安がある。

②教えにくい分野と教えやすい分野に差があるのではないだろうか？

→資産形成や金融商品は外部講師に依頼するつもりである。

③外部の専門家に講師を依頼する場合、難しい内容となって生徒が理解できないのではないか？

→外部講師は全クラス合同の授業となるため、一方通行で受け身の授業になる(学習効果が高くない)。

④教科書の知識だけでは、座学中心で実際にはあまり役に立たないのではないか？

→生徒自身のライフプラン作成や生徒同士の意見交換、映像資料の活用など、様々な工夫が行われている。

# 内容

1. 金融教育の現状
2. 家庭科での金融教育の開始
3. 家庭科における金融教育の課題・懸念
4. 高校へのヒアリング調査
5. ヒアリング調査の結果
6. 金融教育のリアルな課題
7. 解決のアイデア
8. メリット
9. 実現性
10. 結論

## 6. 金融教育のリアルな課題

- 外部の専門家が教える授業を、どうやって全クラス一斉ではない形で行えばよいか？
- 外部の専門家をどのように選び、依頼すればよいか？



金融教育を担当する家庭科  
教諭のリアルな悩み

# 内容

1. 金融教育の現状
2. 家庭科での金融教育の開始
3. 家庭科における金融教育の課題・懸念
4. 高校へのヒアリング調査
5. ヒアリング調査の結果
6. 金融教育のリアルな課題
7. 解決のアイデア
8. メリット
9. 実現性
10. 結論

## 7. 解決のアイデア

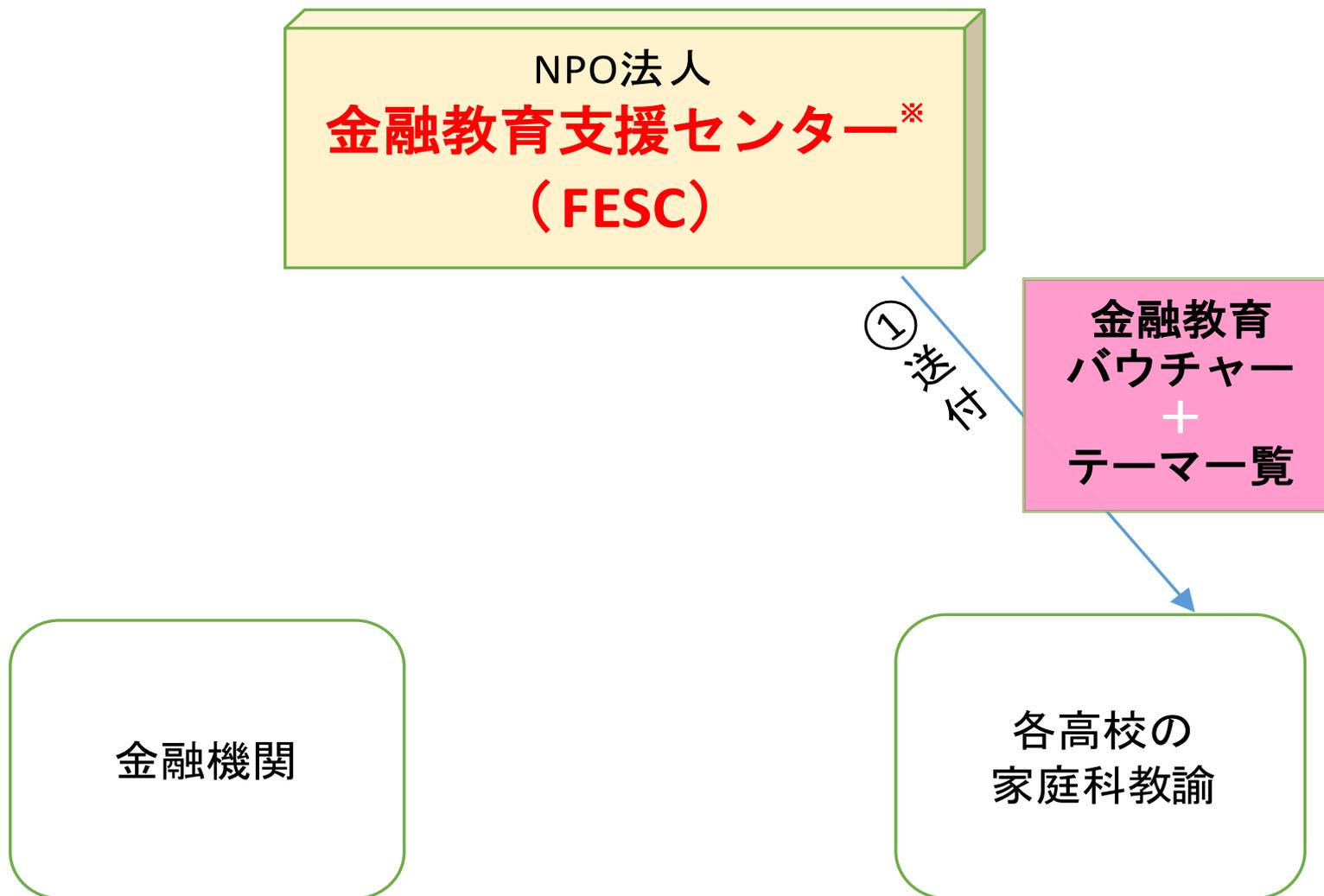
# 非営利法人「金融教育支援センター」 (F E S C) の設立

Financial Education Support Center

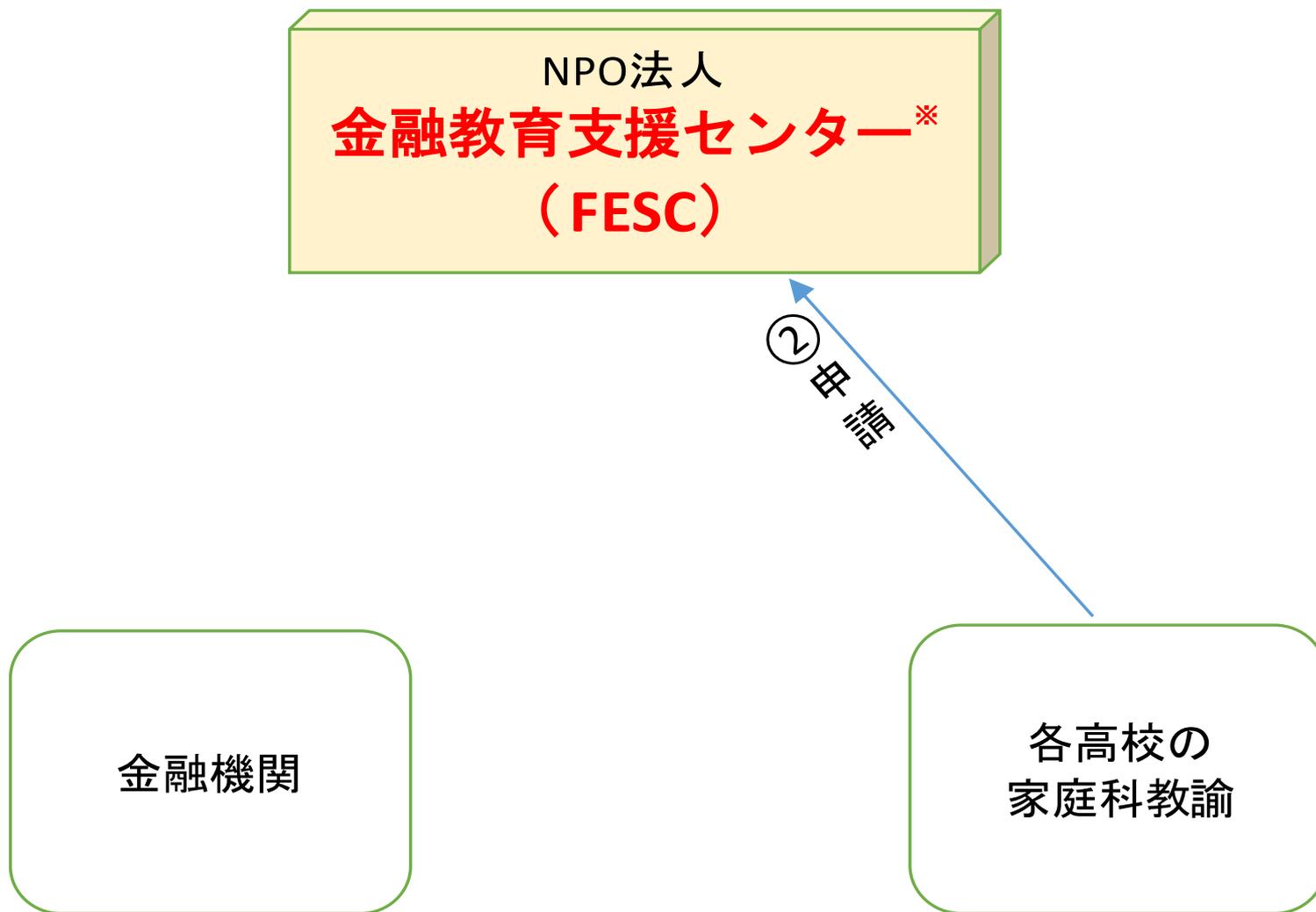


「金融教育バウチャー」を活用して、外部  
の専門家に金融教育の講義を手配する組織

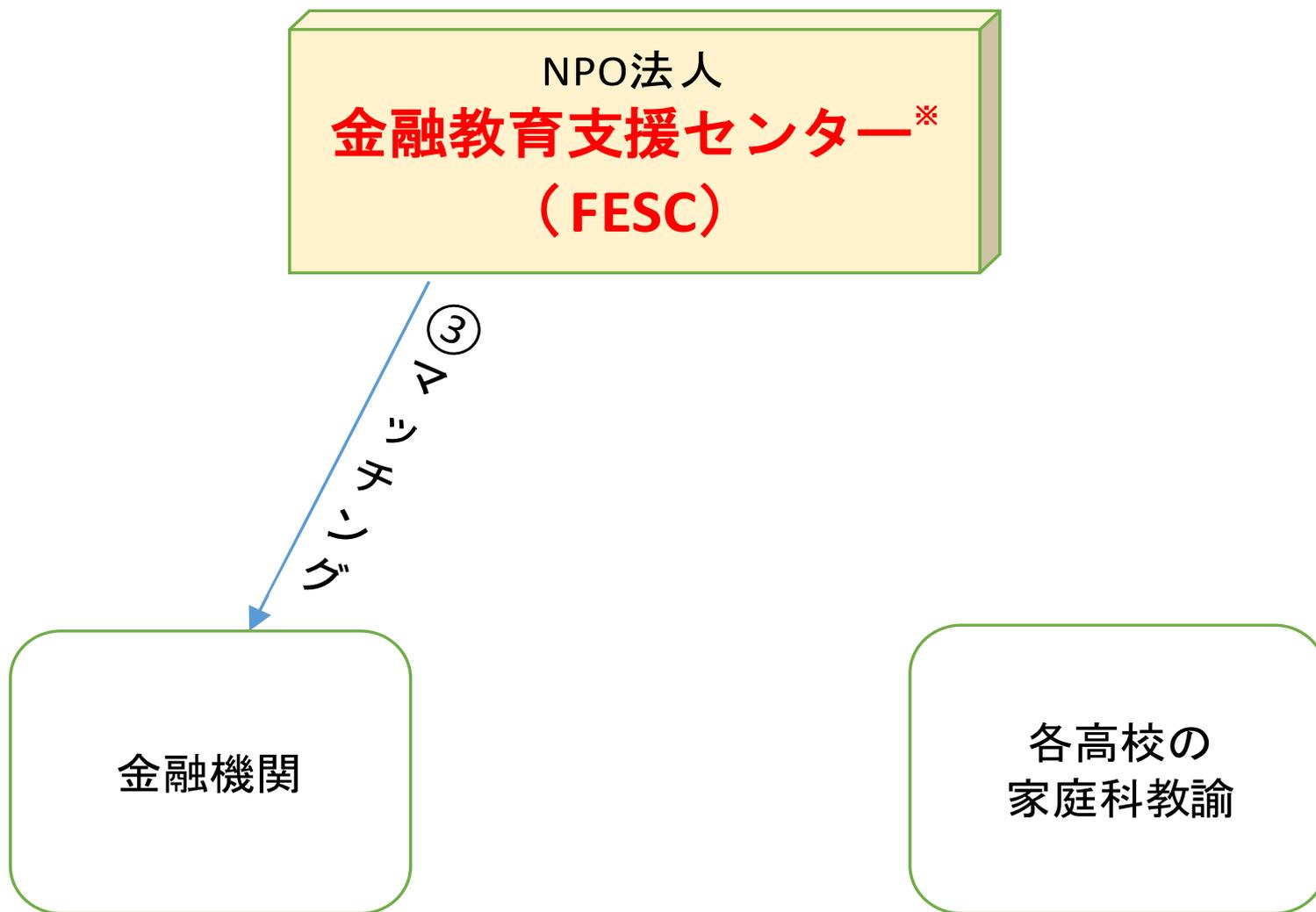
# F E S Cによる金融教育バウチャー制度 の仕組み



# F E S Cによる金融教育バウチャー制度 の仕組み



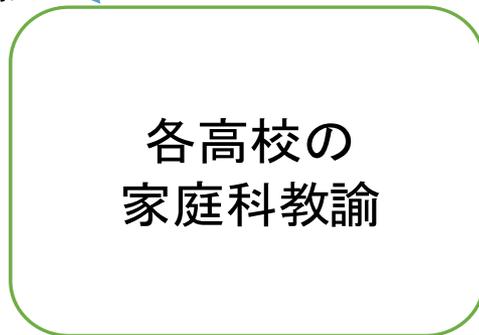
# F E S Cによる金融教育バウチャー制度 の仕組み



# F E S Cによる金融教育バウチャー制度 の仕組み



④ 講師情報連絡



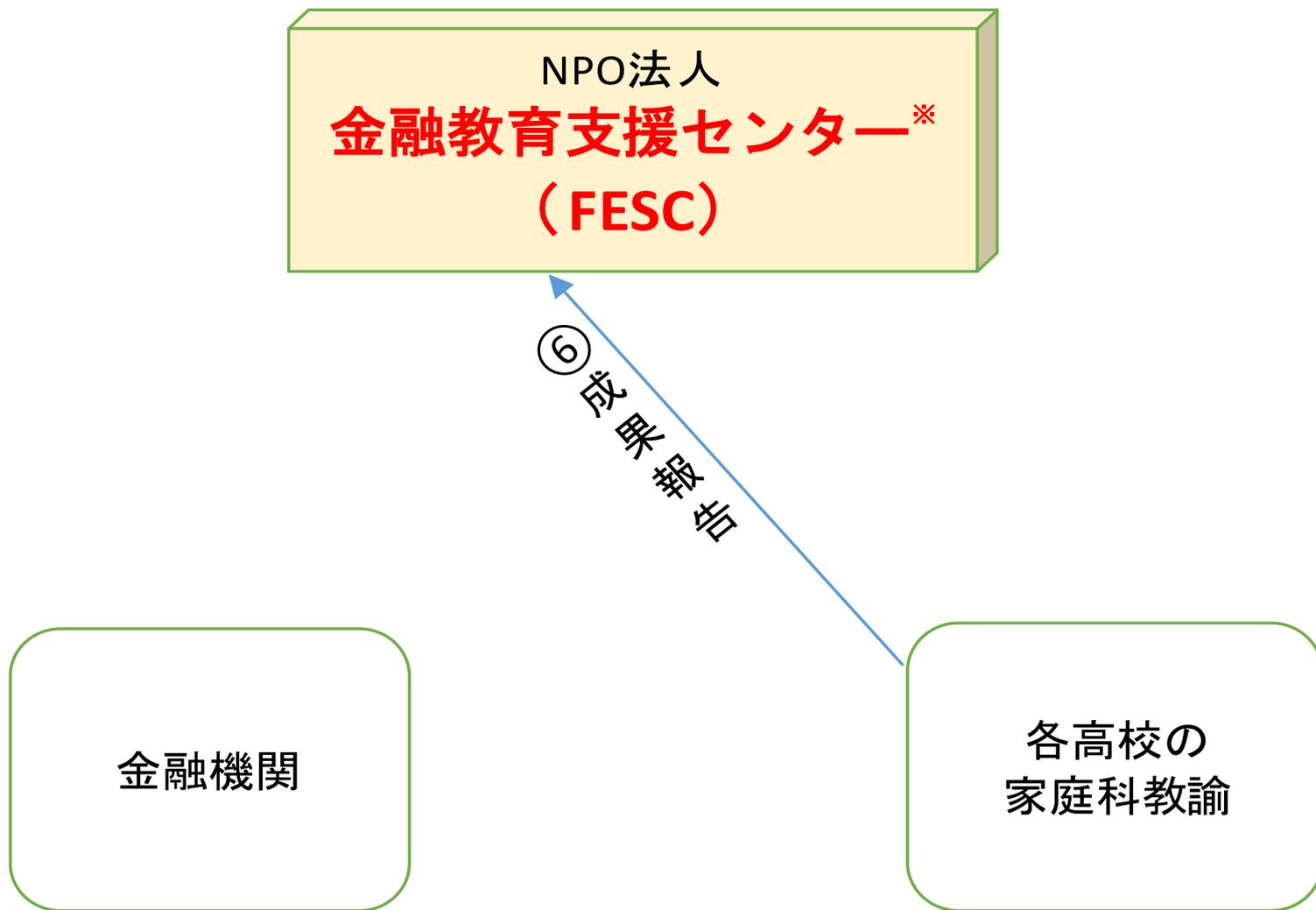
# F E S Cによる金融教育バウチャー制度 の仕組み



# F E S Cによる金融教育バウチャー制度 の仕組み



# F E S Cによる金融教育バウチャー制度 の仕組み



# F E S Cによる金融教育バウチャー制度 の仕組み

⑦実績を  
公表

NPO法人  
**金融教育支援センター\***  
**(FESC)**

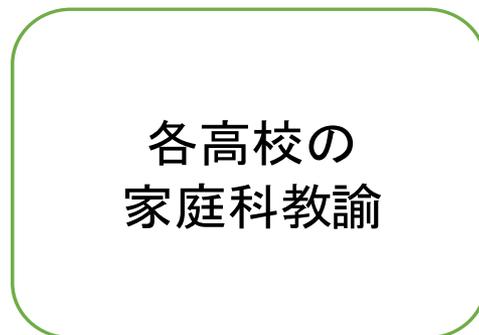
金融機関

各高校の  
家庭科教諭

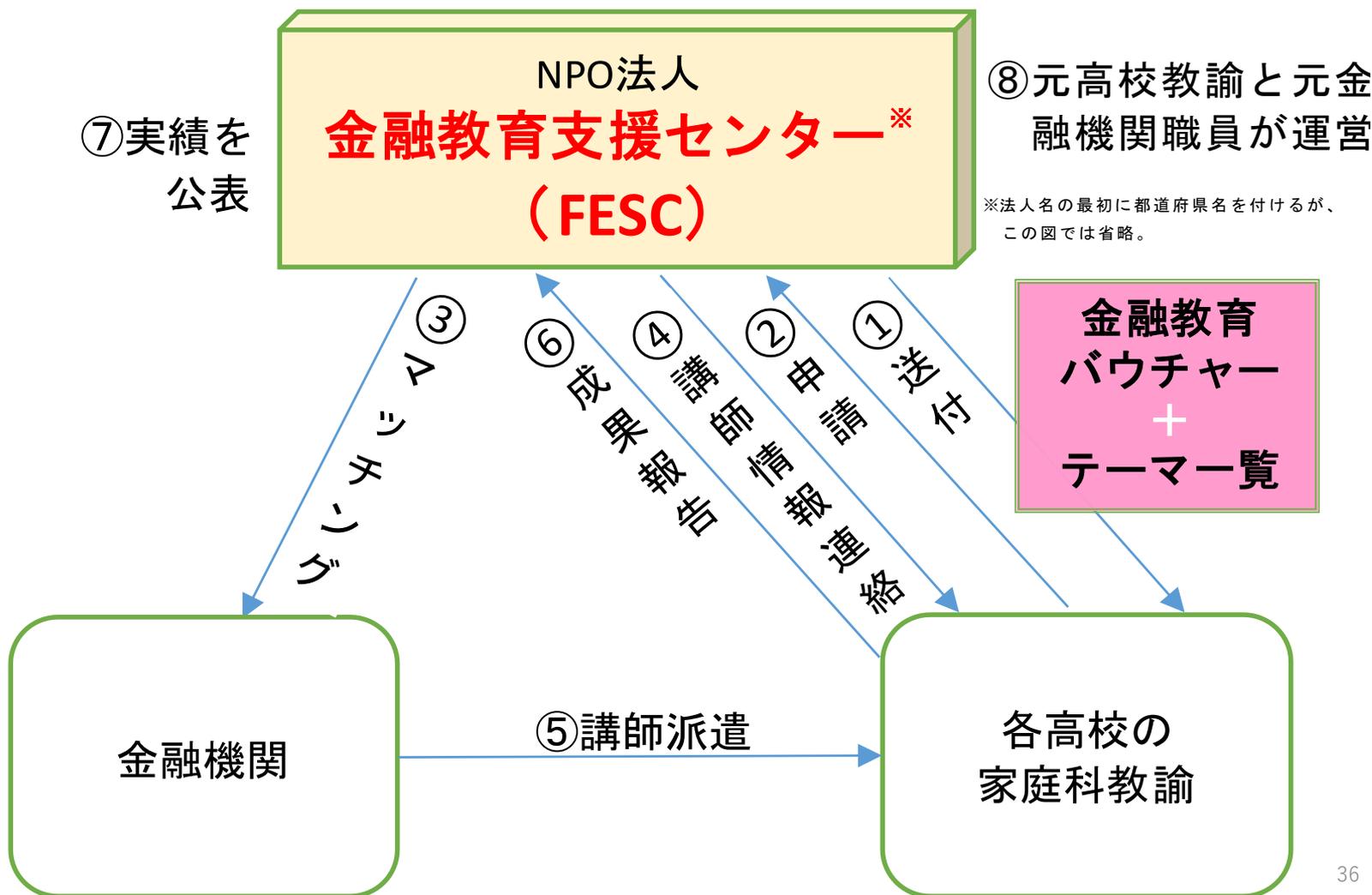
# F E S Cによる金融教育バウチャー制度 の仕組み



⑧元高校教諭と元金融機関職員が運営



# F E S Cによる金融教育バウチャー制度の仕組み



# 内容

1. 金融教育の現状
2. 家庭科での金融教育の開始
3. 家庭科における金融教育の課題・懸念
4. 高校へのヒアリング調査
5. ヒアリング調査の結果
6. 金融教育のリアルな課題
7. 解決のアイデア
8. メリット
9. 実現性
10. 結論

## 8. メリット

### (生徒側のメリット)

- ① 一方通行ではない**参加型の授業**を実施でき、生徒の関心が高まる。
- ② **金融の専門家**と近い距離で**直接的なやり取り**ができる。

### (教諭側のメリット)

- ① 依頼テーマを自分で考案する時間を短縮でき、**金融機関を調査・手配する手間が不要**になる。
- ② 教諭が授業に加われるため、**きめ細かい授業**を実施できる。

## (金融機関側のメリット)

- ① 金融機関名を、多くの高校生に知ってもらう機会となる。
- ② 社会貢献意識の高い金融機関としての評判が高まる。

## (退職者のメリット)

- ① 高校教諭および金融機関職員は、退職後に、自分の知識や経験を生かした社会貢献ができる。



すべての関係者にメリットがある

# 内容

1. 金融教育の現状
2. 家庭科での金融教育の開始
3. 家庭科における金融教育の課題・懸念
4. 高校へのヒアリング調査
5. ヒアリング調査の結果
6. 金融教育のリアルな課題
7. 解決のアイデア
8. メリット
9. 実現性
10. 結論

## 9. 実現性（茨城県の例）

- 県内の全高校の1学年の総クラス数は？

$$\begin{array}{rcl} 1\text{学年の人数} \div 1\text{クラスの人数} & = & \text{総クラス} \\ 23,394\text{人} \div 40\text{人} & = & 584.3\text{クラス} \end{array}$$

- 584.3クラスを金融機関の何人の講師が担当するか？

$$\begin{array}{rcl} \text{参加金融機関数} \times \text{各社講師数} & = & \text{総講師数} \\ 16\text{社} \times 2\text{名} & = & 32\text{名} \end{array}$$

- 講師1人は何回授業を担当するか？

$$584.3\text{クラス} \div 32\text{名} \div 12\text{ヶ月} = 1.52\text{クラス（月1～2回）}$$

 1社あたり職員2名が月平均1～2回なら、金融機関にも大きな負担とならず実現可能性が高い。

# 内容

1. 金融教育の現状
2. 家庭科での金融教育の開始
3. 家庭科における金融教育の課題・懸念
4. 高校へのヒアリング調査
5. ヒアリング調査の結果
6. 金融教育のリアルな課題
7. 解決のアイデア
8. メリット
9. 実現性
10. 結論

## 10. 結論

このアイデアが実現すれば、すべての高校の生徒に、外部の専門家による資産形成や金融商品に関する授業を、生徒と講師が直接やり取りしながら学びを深められる「双方向型」で、家庭科教諭の負担なく実施できる。



日本人の金融リテラシーは今後飛躍的に向上する！！

ご清聴どうもありがとうございました。  
ございました。

調査にご協力いただいた高校の家庭科教諭、  
および図表使用を許諾していただいた方々に、  
感謝申し上げます。

# 参考文献

- 文部科学省、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（家庭編）』、平成30年7月
- 株式会社エアトリ、「高校生の”金融教育“開始目前! 考えさせられる大人の「資産形成」の現実。6割以上の方がコロナ禍以前より投資を開始していた! ~エアトリが「資産運用」に関するアンケート調査を実施~」、2022年3月10日
- 株式会社Free Life Consulting、「【全国の高校教師466名に調査】高校生の「資産形成」必修化に8割が肯定的 先生自身も7割が「資産形成」を学ぶことに興味あり」、2022年3月14日
- 金融広報中央委員会、「「金融リテラシー調査2022年」の結果」、2022年7月5日

# 質問用紙(本紙)

## 表面

### ヒアリング内容

#### 1 ご担当の「家庭科」での金融教育の授業時間数について

- (1) 金融教育の授業時間数は何時間を想定していますか？
- a 2時間以下
  - b 3時間以上4時間以下
  - c 5時間以上6時間以下
  - d 7時間以上8時間以下
  - e 9時間以上10時間以下
  - f 11時間以上
- (2) 質問文1で答えた時間数を決めた際に、もっとも重視したことは何ですか？(複数回答可)
- a (他の内容と比べての)金融教育の優先度
  - b 出版社が例示した時間
  - c 生徒たちの実践経験
  - d 上記以外のもの
  - e 重視したことはない

#### 2 ご担当の「家庭科」での金融教育の内容について

別紙をご参照ください。

可能であれば、事前に別紙のA、B欄にご記入いただき、当日お持ちいただければ大変助かります。

#### 3 ご担当の「家庭科」で実施している金融教育の教え方について

- (1) 金融教育の授業で何を理解させることを重視していますか？(計画を含む)(複数回答可)
- a 該当範囲の概要の理解
  - b 用語の意味の理解
  - c 実際の数値の理解
  - d その他 ( )
- (2) 金融教育の授業の方法として、どのような工夫を行っていますか？(計画を含む)(複数回答可)
- a 生徒が理解できていないことを詳しく聞き出す
  - b 生徒自身のライフプラン作成
  - c 生徒同士の意見交換
  - d 映像資料の活用
  - e 外部講師の活用
  - f その他 ( )
- (3) 金融庁から指示された教材「高校生向け 金融経済教育指導教材の公表について」を活用していますか？(計画を含む)(回答は1つのみ)
- a 活用している(活用する計画である)
  - b 活用していないが、今後は活用したい
  - c 活用していないし、今後も活用する予定はない
  - d 存在を知らない

裏面に続く

## 裏面

#### 4 ご担当の「家庭科」で実施している金融教育の教え方の課題について

- (1) ご自身の金融教育の教え方に課題は感じますか？(複数回答可)
- a 教科書の内容が生徒には難しい
  - b 教科書の内容が物足りない
  - c 自身の知識が不十分に感じる
  - d 課題・問題はない
  - e その他 ( )
- (2) 金融教育を外部講師を依頼する場合の課題は何ですか？(複数回答可)
- a 依頼の費用がかかる
  - b 外部講師に任せきりになってしまう
  - c 教え方が生徒の実情に合わない場合がある
  - d こちらの希望する教育内容と異なる場合がある
  - e 学習効果が見えにくい
  - f 課題・問題はない
  - g その他 ( )

#### 5 望ましいと思う「家庭科」での金融教育の教え方について

- (1) 望ましいと思う金融教育の教え方は何ですか？(複数回答可)
- a 生徒の実情に応じた教育を行うために、担当教諭が教える
  - b 教員以外の視点から金融に関する考え方を学ぶために、外部講師に依頼する
  - c 具体的なイメージを持たせるために、映像資料を利用する
  - d 理解度の確認のために、小テストを行う
  - e 意欲や理解度を高めるために、グループワークを取り入れる
  - f 興味を高めるために、クイズやゲームを取り入れる
  - g 将来の生活を想像させるために、ライフプラン作成を取り入れる
  - h 資産形成をイメージさせるために、資産形成シミュレーションを取り入れる
  - i その他 ( )

ご協力どうもありがとうございました。

# 質問用紙(別紙)①

以下の内容(章・節・項のタイトル、学習の狙い、該当するキーワード)は、5冊の家庭科の教科書に収録されている金融教育の内容を、私たちが整理・統合したものです。右端のA,B欄にご記入をお願いいたします。

5冊の教科書の金融教育の内容を整理・統合した結果				各教科書の収録状況					A	B			
章	節	項	学習の狙い	該当するキーワード		教科書 a	教科書 b	教科書 c	教科書 d	教科書 e	ご自身が教える内容(計画含む)○や△を記入してください。	教えるにくい(生徒が理解しにくい、関心をもちにくい)と思われるものに△や×を記入してください。	
				大区分	小区分								
将来を見据えた資産形成	1	ライフプランニング	1 ライフステージ・ライフイベント ・生活設計を立てるためには、生涯収入について知る必要があることを理解する。	ライフプランニング	△	○	○	○	○	○			
				ライフステージ・ライフイベント	○	○	○	○	○	○			
				2 経済計画	・長期的・計画的な資金管理が大切であることを理解する。	長期経済計画	○	○	×	○	×	×	
					生涯収入	○	○	×	×	×			
					累積年収	○	○	×	×	×			
					3 3大支出	○	○	×	×	○			
					人生の3大支出	○	○	×	×	○			
					教育資金	○	○	○	×	○			
					住宅資金	○	○	○	×	○			
					老後資金	○	○	○	×	○			
		2	資産形成と資産運用	1 資産形成 ・安定した生活のためには、生涯を見通して資産形成を行う必要があることを理解する。 ・資産形成を促進する制度があることを理解する。	資産形成	△	○	×	○	○			
	資産形成を促す仕組み				○	○	×	×	×	×			
	定期預金				○	○	×	×	△	△			
					財形貯蓄	△	○	×	×	×			
					確定拠出年金	○	○	○	○	△			
				少額投資非課税制度(NISA)	○	×	×	×	×				
				2 金融商品 ・預金、株式、債券、投資信託の基本的な金融商品のそれぞれに特徴があることを理解する。	金融商品	○	○	○	○	○			
				普通預金	○	○	○	○	△				
				定期預金	○	○	×	×	△				
				外貨預金	×	○	×	×	△				
				投資信託	○	○	×	○	○				
				債券	○	○	○	○	○				
				株式	○	○	○	○	○				
				・金融商品の判断基準に複数の観点があることを理解する。	金融商品の基準・選び方	○	○	○	○	○			
				安全性、収益性、流動性	○	○	○	○	○				
				ハイリスク、ハイリターン	○	○	○	×	×				
		3	資産の種類 ・金融資産の購入に際し、それぞれの特徴があることを理解する。	金融資産	△	○	○	×	○				
						現金	×	○	○	○	△		
						預貯金	○	○	○	○	△		
				有価証券	×	○	×	○	×				
				債券	○	○	○	○	○				
				株式	○	○	○	○	○				
				・住宅等の実物資産は、利用などにより減価し、売却しにくいことを理解する。	実物資産	×	○	×	×	○			
				土地	×	○	×	×	○				
				建物	×	○	×	×	○				
	3	リスク管理と保険	1 リスク管理 ・病気や事故などのリスク管理が現実となった場合の家計の負担の大きさを認識し、リスク管理の方法を身に付ける。	リスク管理	○	○	×	○	×				
							生命保険	○	○	×	○	○	
							損害保険	○	○	×	×	○	
				医療保険	△	○	○	○	×				
				がん保険	×	○	×	×	×				
				リスクマネジメント	○	○	×	○	×				
				金融リテラシー	×	○	×	○	×				
				2 保険 ・将来、収入から保険料が引かれることを理解する。	公的保険	○	○	○	○	×			
				健康保険	○	○	×	○	○				
				介護保険	○	○	○	○	○				
				厚生年金	○	○	×	○	○				
				雇用保険	○	○	○	○	○				

茨城県内私立A高校の回答		茨城県内県立B高校の回答	
A	B	A	B
ご自身が教える内容(計画含む)○や△を記入してください。	教えるにくい(生徒が理解しにくい、関心をもちにくい)と思われるものに△や×を記入してください。	ご自身が教える内容(計画含む)○や△を記入してください。	教えるにくい(生徒が理解しにくい、関心をもちにくい)と思われるものに△や×を記入してください。
○		○	△
△		○	△
○		○	△
△	△	△	△
○		○	△
○	△	△	△
○		○	
○		△	47

# 質問用紙(別紙)②

## 前ページからの続き(下半分)

				茨城県内 私立A高校 の回答		茨城県内 県立B高校 の回答				
2: 家計の収入と支出	家計	1 家計	・経済的な自立には、家計を管理する必要があることを理解する。	経済行為	x	x	x	x	o	
				経済的自立	o	o	o	o	o	
		2 家計の管理	・収入と支出が適合するように、生活費と貯蓄資金を適合させる必要があることを理解する。 ・資金管理に関する意思決定の基本を理解し、実践する力を身に付ける。	家計	o	o	o	o	o	
				家計簿	o	o	o	o	o	
	2 収入と支出の種類	1 収入・実収入	・給与明細票や源泉徴収票の見方を身に  ・実収入に種類があることを理解する。  ・実収入以外の受取に種類があることを理解する。	収入と支出	o	o	o	o	o	
				生活費	o	o	o	o	o	
				貯蓄	o	o	o	o	△	
				資金管理	o	o	o	o	o	
				金銭管理能力、お金を適切に管理する力	o	o	o	x	△	
				給与明細	o	o	o	o	o	
		2 支出・実支出	・実支出に種類があることを理解する。  ・実支出以外の支払に種類があることを理解する。	実収入	勤怠	△	o	x	x	o
					支給	△	o	x	x	o
					可処分所得	o	o	o	o	o
					初任給	△	x	x	x	o
					手取り額	o	o	x	x	o
					源泉徴収票	o	x	x	x	x
	2 債務の知識	1 消費者信用	・消費者信用は販売信用と消費者金融の2つから成り立っていることを理解する。	実収入	o	o	o	o	o	
				勤め先収入	o	o	o	o	o	
		2 返済方法	・クレジットカードの仕組みや危険性について理解し、適切に行動する力を身に付ける。 ・リボ払いには危険があることを理解する。	実収入	事業・内職収入	x	o	o	o	o
					年金収入	x	o	o	o	o
3 多重債務		・多重債務に陥らない方法、陥ったときの対処法を身に付ける。	実収入	受贈金	o	o	o	o	o	
				財産収入	o	o	o	o	x	
2 収入と支出の種類	1 収入・実収入	・実収入に種類があることを理解する。  ・実収入以外の受取に種類があることを理解する。	実収入以外の受取	o	o	o	o	o		
			預貯金	o	o	o	o	o		
			保険金受取	o	o	o	o	o		
			有価証券	o	o	x	o	x		
			財産売却金	o	o	o	o	o		
			借入金	o	o	o	o	o		
	2 支出・実支出	・実支出に種類があることを理解する。  ・実支出以外の支払に種類があることを理解する。	実支出	食料	o	o	o	o	o	
				住居	o	o	o	o	o	
				光熱・水道	o	o	o	o	o	
				家具・家事用品	o	o	o	o	o	
				被服及び履物	o	o	o	o	o	
				保険医療	o	o	o	o	o	
2 債務の知識	1 消費者信用	・消費者信用は販売信用と消費者金融の2つから成り立っていることを理解する。	実支出	o	o	o	o	o		
			交済・通信	o	o	o	o	o		
	2 返済方法	・クレジットカードの仕組みや危険性について理解し、適切に行動する力を身に付ける。 ・リボ払いには危険があることを理解する。	実支出	教育	o	o	o	o	o	
				教養娯楽	o	o	o	o	o	
	3 多重債務	・多重債務に陥らない方法、陥ったときの対処法を身に付ける。	実支出	消費税	o	o	x	x	o	
				預貯金	o	o	o	o	o	
2 収入と支出の種類	1 収入・実収入	・実収入に種類があることを理解する。  ・実収入以外の受取に種類があることを理解する。	実支出	o	o	o	o	o		
			私的保険保険料	o	o	o	x	o		
			有価証券	o	o	x	o	x		
			財産購入	o	o	o	o	o		
			借入金返済	o	o	o	o	o		
			黒字	o	o	o	o	o		
	2 債務の知識	1 消費者信用	・消費者信用は販売信用と消費者金融の2つから成り立っていることを理解する。	実支出	o	o	o	o	o	
				販売信用	o	o	o	o	o	
		2 返済方法	・クレジットカードの仕組みや危険性について理解し、適切に行動する力を身に付ける。 ・リボ払いには危険があることを理解する。	消費者信用	返済方法	o	x	o	o	
					クレジットカード	o	o	o	o	
		3 多重債務	・多重債務に陥らない方法、陥ったときの対処法を身に付ける。	消費者信用	リボルビング払い	o	o	o	o	
					金利	o	o	o	o	
2 返済方法	・クレジットカードの仕組みや危険性について理解し、適切に行動する力を身に付ける。 ・リボ払いには危険があることを理解する。	多重債務	返済	o	o	o	o			
			ローン	o	o	x	o			

# ヒアリング調査の結果①

1 ご担当の「家庭科」での金融教育の授業時間数について	
(1) 金融教育の授業時間数は何時間を想定していますか？	
<b>A高校</b>	<b>B高校</b>
回答 c (5時間以上6時間以下)	回答 d (7時間以上8時間未満)
<b>ヒアリング結果</b>	
今年度は金融教育(経済の内容を含む)の時間を増やした結果、約6時間になった。	B高校1年生の家庭科の授業は、1回の授業が2コマ続きで行われ、8時間を想定している。
昨年度は金融教育(経済の内容を含む)の重要度は低かった。	どのくらいの時間をかけるか、他の家庭科の内容との兼ね合いからこの時間になった。
教科書で取り扱っていないものも含めるため金融教育(経済の内容を含む)の時間を少し増やした。	家庭科の金融教育に使う時間が8時間と多いと思われたかもしれないが、他の家庭科の分野も同じくらい授業時間を確保しているため、金融教育だけ授業時間が多いわけではない。
金融教育(経済の内容を含む)の時間数をこれ以上増やせない。	これまでの金融経済に関する内容の授業より1、2時間多めに想定している。
ほかの内容もあるため時間を多くかけることはできない。	全8時間の金融教育の時間数は外部講師の授業数も含む。
(2) 質問文1で答えた時間数を決めた際に、もっとも重視したことは何ですか？	
<b>A高校</b>	<b>B高校</b>
回答 c (生徒たちの実践経験) d (上記以外のもの)	回答 d (上記以外のもの)
<b>ヒアリング結果</b>	
家庭科の中でライフプランの重要度は高い。	出版社が例示した時間は、あまり参考にしていない。
金融教育(経済の内容を含む)は衣食住の分野と同じくらい重要である。	金融教育は注目度が高い大事な分野であると考えている。
出版社が例示した時間数は内容に対して少なかったため、参考程度にして、最終的には先生が時間数を決めた。	特定の内容をやりたいから授業時間を増やすといった決め方はしない。
授業時間を決める時に生徒がこれくらい時間をかければ理解できるという経験から授業時間数を考えた。	グループワークは基本行うように心がけている。
家庭科の授業は2単位でやらなければならない、さらに昨年はオンライン授業だったため教える内容を省略していた。	資産運用について解説してもらうために、外部講師を呼ぶ予定である。
出版社や金融庁の参考時間だと、生徒たちが金融教育に関する分野を理解するには時間が少ないと感じる。	資産運用は、家庭科の授業の総まとめとして作成する生活設計で活用する。
	生活設計はSDGsを含んだものにする予定である。
	作成した生活設計は生徒同士で見比べて意見交換する。
	生活設計は生徒が主導して作成する。

2 ご担当の「家庭科」での金融教育の内容について	
A ご自身が教える内容(計画含む)○や△を記入してください。	
<b>A高校</b>	<b>B高校</b>
回答(○と回答したもの)	回答(○と回答したもの)
ライフプランニング、ライフステージ・ライフイベント 人生の三大支出 金融商品 金融商品の基準 金融資産 実物資産 リスク管理 公的保険 資金管理 給与明細、源泉徴収票 実収入 実収入以外の受取 実支出 実支出以外の支払 消費者信用 返済方法 多重債務	ライフプランニング、ライフステージ・ライフイベント 長期経済計画 人生の三大支出 金融商品 リスク管理 資金管理 給与明細、源泉徴収票 実収入 実収入以外の受取 実支出 実支出以外の支払 消費者信用 返済方法 多重債務
回答(△と回答したもの)	回答(△と回答したもの)
長期経済計画 資産形成、資産形成を促す仕組み	資産形成、資産形成を促す仕組み 金融商品の基準・選び方 金融資産、実物資産 公的保険
<b>ヒアリング結果</b>	
△と答えた項目は、教えたいが時間がないため触れるのみにってしまう項目と、○に対しては、重要ではないと思う項目の2つがある。	○は、必ず触れなければいけない内容の項目に記入されている。 ○と記入された項目の中でも、難しい又は時間の都合から簡単にしか触れられない内容がある。
今年度から教科書が変わり、奨学金などの前年では含まれていなかった用語が記載されるようになった。	△は、外部講師に教えていただく予定である内容の項目に記入されている。
実際に使用する教科書に記載されていない用語も教えたいと考えており、その際は別の資料を使って解説する。	B高校1年生の家庭科では、第一学習社の教科書が使用されている。 別の教科書だが、昨年使用していた教科書の金融教育に関する分野はほぼ一致しており、今年度の教科書は、昨年と比べて資産形成についてより詳しく記載されている。
	教科書に記載されている金融教育の内容について、全てを授業で取り扱いたいと考えている。
	金融教育の内容は多いと感じている。その理由は、教科書に記載されている内容の全てを授業で取り扱うには時間が足りないから。
B 教えにくい(生徒が理解しにくい)、関心をもちにくいと思われるものに△や×を記入してください。	
<b>A高校</b>	<b>B高校</b>
回答(×と回答したもの) 記載なし	回答(×と回答したもの) 記載なし
回答(△と回答したもの)	回答(△と回答したもの)
資産形成、資産形成を促す仕組み 金融商品の基準・選び方 金融資産、実物資産 資金管理 実収入以外の受取 実支出以外の支払 消費者信用 返済方法 多重債務	ライフプランニング、ライフステージ・ライフイベント 長期経済計画 人生の3大支出 資産形成、資産形成を促す仕組み 金融商品 金融商品の基準・選び方 金融資産、実物資産
<b>ヒアリング結果</b>	
生徒が理解しにくい、関心をもちにくいものどちらかに当てはまる項目は△とし、その内、理解しにくいという理由の△は9つあった。	ライフプランニングに△と記入した理由は、人生経験の少ない高校生では、将来について考え、計画を作るのは難しいと考えたから。
生徒が理解しにくいと思う理由は、専門用語が難しいと考えたから。	資産運用に関する内容に△と記入した理由は、(先生自身の)知識が足りず、教えるのが難しいと考えたから。
グループワークなどの活動を通じて理解度を高めたい。	生徒は少なからず金融経済に関心を持っている。
(先生自身が)金融に関する知識不足を感じ、分からないところは勉強するよう努めている。	給与明細の見方には興味があるが、収入・支出の種類となると面倒・不要という気持ちになる生徒が多い。

# ヒアリング調査の結果②

3 ご担当の「家庭科」で実施している金融教育の教え方について	
(1) 金融教育の授業で何を理解させることを重視していますか？(計画を含む)(複数回答可)	
A高校	B高校
回答 a(該当範囲の概要の理解) b(用語の意味の理解)	回答 a(該当範囲の概要の理解) b(用語の意味の理解) c(実際の数値の理解)
ヒアリング結果	
金融用語に関しては大きなキーワードだけではなく、教科書の下にあるようなコラムの単語も説明する。	お金の管理と生活設計を結びつけて最終目標の将来を見通す力を身につける。
投資額などの実際の数値の理解ではシミュレーションを導入しようと考えている。	小区分などの単語の細かい意味は生徒自身に調べてもらう。
ハイリスク・ハイリターンなどの単語の意味は教えるが、実際に金額の計算は時間があれば教える。	個人個人で給与明細の計算をさせる。 現代の生徒は数値の計算は速いと思う。 過去に給与明細の計算を実際にやらせたことがあったが時間がなかった。
	b, cよりも特にa(該当範囲の概要の理解)を重視している。
	金融の分野が終わったら、金融の分野と結びつけた生活設計の時間を設ける。ただし、生活設計をやる時間は、金融教育の授業時間数とは別にしてはいる。
(2) 金融教育の授業の方法として、どのような工夫を行っていますか？(計画を含む)(複数回答可)	
A高校	B高校
回答 b(生徒自身のライフプラン作成) c(生徒同士の意見交換) d(映像資料の活用)	回答 b(生徒自身のライフプラン作成) c(生徒同士の意見交換) e(外部講師の活用)
ヒアリング結果	
ライフプラン作成については生徒一人一人に人生設計を考えさせる。	生徒自身のライフプラン作成、生徒同士の意見交換、外部講師の活用がうまくいかない場合は、映像資料を導入する。
×生命が外部講師として11月に授業を行う予定。その内容としては、ライフプラン作成、資産形成、消費者トラブルを教える。	生徒自身のライフプラン作成は2時間設ける。2時間の授業構成はまず自分でライフプラン作成し、次にグループで各々のライフプラン表について話し合いを行い、最後に自分の見直しをする。
生徒同士の意見交換を行う。	ライフプラン作成の2時間は、金融教育を行う8時間の中には含まない。
金融庁の映像資料を活用するといった工夫をしている。	悪徳商法の対策などについて生徒には話し合ってもらおう。
	外部講師として消費生活センターの講師を呼ぶ予定はない。 具体的にどの企業を外部講師として呼ぶかは決まっていない。
(3) 金融庁から指示された教材「高校生向け 金融経済教育指導教材の公表について」を活用していますか？(計画を含む)(回答は1つのみ)	
A高校	B高校
回答 b(活用していないが今後は活用したい)	回答 a(活用している[活用する計画である])
ヒアリング結果	
実践経験などの高校生が楽しめるような内容を取り入れたい。	金融庁から指示された教材は、授業内でどの程度扱うか何を扱うかは未定。
実際の教科書と金融庁の教材では、金融庁のほうにシミュレーション、ゲームなど生徒の興味をひくものが多い。	金融庁から出された教材は活用するが、先生が自分自身で考えた授業内容が多め。

4 ご担当の「家庭科」で実施している金融教育の教え方の課題について	
(1) ご自身の金融教育の教え方に課題は感じますか？(複数回答可)	
A高校	B高校
回答 a(教科書の内容が生徒には難しい) c(自身の知識が不十分に感じる)	回答 c(自身の知識が不十分に感じる)
ヒアリング結果	
情報量の多さ、経済用語から、教科書の内容は難しい。	特に自身の資産形成に関する知識が不十分だと感じる。
金融庁、インターネット、書籍を利用して勉強している。	金融に関することの教え方の勉強も大切だと感じている。
今年度では、資産、ライフプランニング、お金を作るといった課題が増えている。	昨年度までと金融にかかわる内容はあまり変化なし。 昨年度より資産形成に関する内容が少し多くなった。
(2) 金融教育を外部講師を依頼する場合の課題は何ですか？(複数回答可)	
A高校	B高校
回答 e(学習効果が見えにくい)	回答 g(その他)・・・外部講師と依頼したい授業の予定が合わない
ヒアリング結果	
外部講師を呼んだ時に一方的に聞かされるような形になってしまう。	クラスごとによって進み具合が違うので、外部講師との予定の立て方が難しい。
生徒が講堂に集まって開催する形式なので、一人一人を見ることができない。	クレジット業界や×銀行などの企業から外部講師の案内チラシが多数来ている(×銀行は動画配信)。
質問や話し合いの時間を多くとれないため、生徒の理解度に差が生じてしまうので、学習効果が見えにくい。	外部講師の依頼の費用は、今まで来た案内チラシは全て無料だった。
	外部講師の授業はクラス単位でやりたいが、8クラスあるので8回来ていただくのは難しい。
	外部講師の授業をクラス合同で行う場合、机がない状況で授業を行うことになる。
	外部講師の授業をクラス単位でやるかクラス合同でやるかは現在検討中。
	選択肢のb, c, dは外部講師との打ち合わせで解消できるものと考えている。
	これまで外部講師を招いた授業を行ってきた中で、学習効果がなかったことは一度もないと実感しているので、金融に関する外部講師の授業も学習効果があると思っている。
	3年生は公民の授業内で、金融に関する外部指導を依頼しようと、公民の先生と話し合っている。

# ヒアリング調査の結果③

5	望ましいと思う「家庭科」での金融教育の教え方について	
(1)	望ましいと思う金融教育の教え方は何ですか？(複数回答可)	
	A高校	B高校
回答	c (具体的なイメージを持たせるために、映像資料を活用する) e (意欲や理解度を高めるために、グループワークを取り入れる) f (興味を高めるために、クイズやゲームを取り入れる) g (将来の生活を想像させるために、ライフプラン作成を取り入れる) h (資産形成をイメージさせるために、資産形成シミュレーションを取り入れる)	回答 a (生徒の実情に応じた金融教育を行うために、担当教諭が教える) b (教員以外の視点から金融に関する考え方を学ぶために、外部講師に依頼する) c (具体的なイメージを持たせるために、映像資料を活用する) e (意欲や理解度を高めるために、グループワークを取り入れる) g (将来の生活を想像させるために、ライフプラン作成を取り入れる)
ヒアリング結果		
もう一人の家庭科教員と話し合い、内容に偏りがないようにする。	家庭科の金融教育の授業は1年生の時に行われ、家庭科の分野をどの順番で学習するかは、担当教師が決めることができる。B高校の1年生は8クラスあり、家庭科の授業は一人の先生が全て担当している。	
映像資料はNHKや金融庁の映像資料を使用する。	映像資料を活用するとき、一般の人が作成したものではなく金融庁やNHK、金融機関など出所がはっきりしたものを使うことにしている。	
将来の生活を想像させるためにライフプラン作成を取り入れる。	実際に過去の家庭科の授業では金融庁が作成した映像資料を活用している。	
	映像資料を見るときは基本的に教室の備え付きのモニターで視聴することを想定しており、個別に見せたい場合には、生徒ごとのタブレット端末での視聴も考えている。	
	B高校では、授業でタブレット端末を授業で活用している。家庭科の金融教育の分野では、映像資料の閲覧や、金融庁のHPを調べるなどといったことに使用されるかもしれないと考えている。	
	B高校の家庭科の先生は、2時間を通しての授業の進行を、基本的に先生による説明、グループワーク、共有、先生によるまとめの順番で行っている。	
	板書を行うタイミングは、説明の時やまとめのときに行っている。	
	そのときに教科書の用語の意味についてずっと板書させているだけだと、ノートに書き写すことが目的になってしまうため、グループワークをなるべく取り入れるようにしている。	
	B高校の家庭科の成績は、年に2回行われるテストの成績で反映される。	
	今年度のB高校の金融教育は、1年生の12月から1月にかけておこなわれる予定のため、金融教育に関する内容のテストは後半のテストで取り扱う。	
	テストの範囲は金融・経済に関する内容だけではなく他の分野と一緒に出題する予定だ。	